

評価項目	評価計画	評価指標結果と評価	自己評価				学校関係者評価								
			目標値 [a]	評価値 [b1] <定時>	評価値 [b2] <通信>	評価 [A~C]									
生徒一人ひとりが、「自分らしい生き方をデザイン」する力の育成	育成を目指す 資質・能力	目標達成のための特色ある取組	評価指標例	全講座の平均出席率(定時)	82% (前期)	83.9%			A	○成果と▲課題 【学習支援・授業改善】(教務部) ○昨年度に引き続き、ICTを活用した展開を意識して授業公開旬間を実施した。この期間前後は端末貸出が増加し、授業で生徒に使用させる場面が多く見られた。学習効果を上げるためにICTを活用しようという動機につながり、授業公開旬間実施の意義はあった。 ○定期的なICT研修や、会議資料を端末で閲覧していることを通じてICT活用場面が広がってきている。授業で活用するアプリも増え、生徒の主体的対話的な学びの支援につながっている。 ▲ICTを教材提示として利用するだけでなく、生徒の思考を深める道具としての利用場面が少なく、実践例の共有も進んでいない。 ▲(定時制)各教科から観点別学習状況の評価の課題は集約したが、情報共有や解決に向けた協議の機会はもてなかった。 ○(通信制)単位修得率を上げるために、受講指導や教科指導を丁寧に行うよう心がけたりレポート提出期限を見直したりすることにより、目標を達成した。 【図書館利用促進】(教育開発部) ○一冊以上借りた生徒の数は昨年度より減少しているが、一人当たりの貸出冊数は定時制で1冊増えている。 ▲・図書館をほとんど利用しなかった生徒の数を減らす。 ・授業等での図書館活用を増やす。	改善策 【ICT利活用の促進】 ・ICTを活用した授業をチーム・ティーチングで実施することで、まずは教科内で実践を共有する。 【観点別評価】 ・PDCAサイクルを回すために、観点別評価を生徒に還元する場面を設定する。 ・校内での情報共有の機会を設定する。 【出席率の向上】 ・今まで行っている生徒支援体制を継続し、担任、学年会、保健相談部と生徒個々の情報を共有して適切な学習指導・支援を繰り返していく。 【図書館利活用推進】 ・「図書リクエスト」「図書館オリエンテーション」等を継続して行う。 ・授業、レポート、進路指導等で図書館を活用する仕掛けを一層促進する。	評価 A	コメント ・生徒との信頼関係づくりを大切に、個の実態に応じた指導・支援が行われている。 ・通信制課程の生徒支援については、入学動機やそれに伴う授業に対する熱意に差があることを考えると、状況に応じた指導方法や内容を考えることも検討する必要があるのではないかと。 ・出席率の向上を目指してほしい。様々な手法を試しながら挑戦してほしい。 ・主体的に学ぶ意欲をCLD生(外国につながる生徒)も含め、他に良い影響を与えた生徒の学習活動や校内での注目すべき取り組みをフィードバックしたりまとめて情報発信してみようか。 ・図書館の利用が向上するとよい。		
				1) 多様な学習ニーズに応える 【今年度の重点施策】 a) ICTを活用した授業の公開、効果的な実践の共有 b) 観点別評価を利用した授業改善、学習環境の整備 c) 教材のルビ振り、やさしい日本語の使用等学習環境の整備 d) 新たなカリキュラムや生徒の主体的な学びを支援する図書館資料の収集と提供	単位の認定率(定時)	90% (前期)	89.7%							B	
					1単位以上修得した生徒の割合(通信)	75%	77.6%	(52.9%)						A	
					年間で図書を利用した生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	35%	37%							A	
					年間図書1冊以上借りた生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	20%		20%						A	
				2) 自己理解、自己決定の場をつくる 【今年度の重点施策】 e) 地域の社会資源の活用、キャリアサポートにつながる主体的・体験的な学びの場の充実 f) 個々の進路決定に向けた校内の情報共有および外部機関との連携 g) 定時制課程で通級による指導を実施	就職・進学など進路先を決定して卒業した生徒の割合(3月末)	90%	100%	100%						A	A
					提供された進路情報は役立つと感じている生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	80%	93%							A	
					体系的な学習は進路実現に役立つと感じている生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	70%	68%	(60%)						B	
					体系的な学習は進路実現に役立つと感じている生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	80%	94%							A	
					体系的な学習は進路実現に役立つと感じている生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	70%	60%							B	
				3) 多様な人と協働する場を支援する 【今年度の重点施策】 h) ホームページ等を活用した、適時な学校活動の情報発信、生徒・保護者への情報提供 i) 「みずうみのかげ」、「FTA」、「同窓会」の活動の中で、協働の場が充実していくように諸会合を運営 j) 地域探究型学習・地域貢献活動の実践と「まなびのキセキ☆発表会」の開催	地域に関連する学習に主体的に取り組む、それを通して穴道町について気づきや発見があった生徒の割合(上段:定時)(下段:通信)	80%	78%							B	
					地域交流活動の年間実施回数	30回	37項目							A	
	外部ボランティア活動に参加した生徒の人数(年間)(上段:定時)(下段:通信)	30人	28人			B									
	外部ボランティア活動に参加した生徒の人数(年間)(上段:定時)(下段:通信)	5人	8人			A									
4) 安全で安心できる環境をつくる 【今年度の重点施策】 k) 生徒の規範意識の向上を目指し、「マナーアップ運動」をはじめとする生活指導の全校体制の実施 l) 人権・同和教育、多文化共生支援の推進、自他とともに大切にすることを意識する特別活動や教職員研修の実施 m) 情報発信を通じた健康管理の意識付け n) 生徒相談体制のさらなる充実、生徒の課題に対する支援 o) 環境美化・環境整備の整備・推進 p) 迅速、丁寧、適切な窓口・電話対応	学校では、悩みや相談に誠意をもって対応してくれていると感じている生徒の割合	80%	85%	76%	(70%)	A	B								
	挨拶ができ、ルールやマナーを守っている生徒の割合	85%	88%	89%	(85%)	A	A								
	自尊感情をもつとともに他者を認め合うことが大切だと考える生徒の割合	90%	97%	96%	(100%)	A	A								

※評価は目標値に対する評価値の割合(A:100以上、B:80以上100未満、C:80未満)